



(H29/6/1)

医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第47号



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

急に気温が高くなった5月後半でしたね。慌てて夏服を出された方も多かったのではないのでしょうか？

家の庭には今ラベンダーが咲いて甘い香りと紫の花から癒しをもらっています。ほったらかしにしているでも毎年きれいに咲いてくれる優秀な存在です♪

第55回ワーキング会議 (5/25)

彦根勤労福祉会館

初参加 20名を含む 49名で行いました。

今日は父親を看取られてた娘さんを中心とした多職種チームの発表でした。

〈参加職種：医師・看護師・保健師・薬剤師・栄養士・ケアマネジャー
介護者の会・ソーシャルワーカー・ケースワーカー・訪問入浴・行政など〉



発表を聞いての感想、印象に残ったキーワードなど

- ・うらやましいと思った。各々の事業所がコミュニケーション（情報交換）とれている。医師がこっちを見ていてくれる。
- ・介護者（娘さん）中心にしてチームが出来てほしい例だと思う。
- ・薬剤師が今後どういう風にアプローチしたらそのチームの中に入れるのか教えてもらいたい。
- ・キーパーソンの娘さんを中心に情報共有が出来た。まさに地域包括ケアだと思った。
- ・家族が覚悟して最期まで看取るケースは少ないと思う。どうすれば実現するのか最後まで看取るにあたり何が必要なのかと思う。
- ・認知症の人がこんなにも穏やかになって最期を迎えられたらいい。チームで支えたからこその笑顔
- ・話し合いの頻度があまり多くなかったのに家族が横のつながりを果たしたい例だが、うまくいかなかったケースというものも聞いてみたい。
- ・家族が不安を吐き出してくれたので各職種がそれに対応することが出来た。誰にでも相談できる体制があると安心感につながる。
- ・松木先生が不在の時は切手先生（彦根市立病院）が対応してくれた。医師の連携があることも重要。
- ・「網の目のような」ネットワークがすばらしい。
- ・医療・介護両輪でそれぞれの立場で考え役割を持って連携していかなければいけないということを学んだ。



次第

☆18:30～ あいさつ

18:35～ 自己紹介

18:45～テーマ 事例報告

「住みなれた地域での暮らしを支えるチームケア」

話題提供者：松木診療所松木医師

ご家族・支援チームの多職種のみなさん

次回のワーキンググループ会議

平成29年6月22日(木) 18:30-

県庁北新館 3階中会議室

●テーマ「(仮)子ども食堂の取り組み」

話題提供者：滋賀の縁創造実践センター 所長

滋賀県社会福祉協議会 事務局 次長

谷口郁美氏

H29年度 総会

8月27日(日) PM

ピアザ淡海 大会議室

◎研修会

「(仮)これからの包括的支援を展望する

～滋賀における『我が事・丸ごと』

の地域共生「社会の実現に向けて～」

同志社大学 准教授 永田祐氏

(最新の国の動向もお伝えいただける予定です)



滋賀の医療福祉を守り育てる県民フォーラム

平成29年11月12日(日) PM

G-NET しが(近江八幡市)



：金子稚子さん(終活ジャーナリスト)

(仮)死ぬことと、生きることは同じ

～夫・金子哲雄の闘病と死に併走して～

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

貝沼・橋本

TEL:077-528-3529 (2017.4～TEL番号がかわりました)

FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp